

国語 第4学年 役わりをいしきしながら話し合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第4学年下巻の話すこと・聞くことの単元。同社の年間指導計画例では10月に置かれている。東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）では、第4学年9月の「クラスで話し合って決めよう」が同じA(1)オを扱う。話し合いの例の議題と役割の呼び方は会社で違うので、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、学級全体で一つの議題を話し合う時に、司会・記録・提案する人・参加する人のどれかの役割を受け持ち、その役割で何を言い、何をすればよいかを知ったうえで話し合いに加わる。参加する人は、黒板の記録を見て、似た意見の同じ所と違う所を言ってから自分の考えを述べ、学級全体で目的に合う考えにまとめるところまで進められる。人数が多くても、記録と役割を使えばみんなで決められる、という経験をさせることが、この単元で目指す姿である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(1)エ	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕A話すこと・聞くこと(2)ウ	ウ 互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(4)	(4) 第2の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については，意図的，計画的に指導する機会が得られるように，第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度，第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度，第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際，音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2 の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2 の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2 の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使う（(2)イ）。目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる（A(1)オ）。言葉がもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合っている。（A(1)オ） ②「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）	①粘り強く、互いの意見の共通点や相違点に着目し、学習の見通しをもって、自分の役割を意識しながら学級全体で話し合おうとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（第4学年）で、この単元は10月、話すこと・聞くこと8時間。学習指導要領 第3 の 1 (4)は、第3学年及び第4学年の話すこと・聞くことに年間30単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第4学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。配当は自校の年間指導計画に合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学級全体で話し合って決めたいこと（議題）を出し合い、単元で話し合う議題と目的を決める。 ○学習の見通しをもつ。	態①（観察）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、司会・記録・提案する人・参加する人が、それぞれ何を言い、何をしているかを見付けて「役割カード」にまとめる。	

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3	○話し合いの進め方（議題と目的の確認→提案→質問→意見を出し合う→比べてまとめる→決まったことの確認）を確かめ、役割を決める。 ○提案する人は提案と理由を、参加する人は自分の考えと理由を話し合いメモに書く。	
	4	○記録の仕方を練習する。先生が読み上げる短い話し合いを聞き、出された意見を短い言葉で書き留め、似た意見をまとめて分類する。	知①（記録・話し合いメモ）
	5	○グループに分かれ、役割を交代しながら短い話題で話し合いの練習をする。	思①（観察）
	6	○学級全体で話し合う（一回目）。提案を聞き、質問し、意見を出し合う。	思①（観察・記録）
	7 （本時）	○学級全体で話し合う（二回目）。黒板の記録を見ながら共通点と相違点を確かめ、目的に照らして考えをまとめて決める。	思②（観察・話し合いメモ）
第3次	8	○話し合いを振り返り、役割ごとによかった発言を出し合って、学級全体で話し合う時の進め方をまとめる。 ○学級会などでも使えることを確かめる。	知①（振り返り） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：学級全体の話し合いで、自分の役割を意識し、黒板の記録を見ながら互いの意見の共通点や相違点に着目して、目的に合う考えにまとめられる。(A(1)オ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の話し合いで出た意見と、残った課題を、記録を見て確かめる。 ○「前の時間の話し合いで、決まったことと、まだ決まっていないことは何ですか」 【めあて】同じところとちがうところに目をつけて、クラスの考えをまとめよう。 2 議題と目的、本時の進め方、役割を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・意見はたくさん出たけれど、決まらなかった。 ・同じような意見がいくつもあった。 ・どの意見にも理由があって、選べなかった。	・前時の記録（黒板の写真か記録係のノート）を掲示し、意見の種類が見て分かるようにしておく。 ・議題と目的を黒板の一番上を書く。 ・司会と記録の子には役割カードを前もって渡し、言うことを確かめさせておく。
展開 (分)	3 学級全体で話し合う。 (1) 司会が、議題と目的、前時に出的意見を確認する。 (2) 記録係が、前時の意見を似た物どうしでまとめた黒板の記録を説明する。 ○「似ている意見は、どこが同じですか。ちがう意見とは、どこがちがいますか」 (3) 参加する人が、共通点と相違点を挙げて意見を言う。 ○「議題の目的に一番合っているのは、どの考えですか。その理由は何ですか」 (4) 司会が、出た考えをまとめ、決まったことを確かめる。 ○「ちがう意見のよいところを、決めた考えに生かせませんか」 4 話し合いで役割がうまく働いた所を全体で確かめる。 ○「みんなで決められたのは、だれの、どんな発言があったからですか」 〈予想される児童の反応〉 ・～と～は、どちらもみんなが楽しめる所が同じだ。 ・～は準備に時間がかかる所が、ほかの意見とちがう。 ・目的は「～」だから、～の考えが合っていると思う。 ・～さんの意見の～という所を、決めた考えに入れたらいい。 ・司会が目的を言い直したので、話がそれなかった。 ・記録係がまとめて書いてくれたので、比べやすかった。	・記録係を複数にし、書く子と、似た意見を線で囲む子に分ける。 ・参加する人は、話し合いメモの「同じところ」「ちがうところ」の欄に書いてから発言する。 ・自分の意見をくり返すだけの子には、「黒板のどの意見と同じで、どこがちがうか」と問い返す。 ・発言が少ない子には、隣の子と一度話してから全体で話す時間を取る。 ・司会が困った時は、役割カードの次の言葉を先生が指さして示す。先生が話し合いを進めすぎない。 ・多数決は、共通点と相違点を確認しても決まらない時だけにする。 ・人数が多い学級は、学級を分けて同じ議題で並行して話し合い、最後に結果を合わせる形にしてもよい。 ◎思② 互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(観察・話し合いメモ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「自分の役割で、うまくできたことと、これから気を付けたいことは何ですか」 【まとめ】記録を見て、同じところとちがうところをたしかめ、目的に照らして考えると、クラスみんなできちんと決めて決められる。 6 次時は、話し合い全体を振り返ることを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・記録を見たら、同じ意見が多いことに気付いた。 ・司会で、まとめの言葉を言えた。 ・これからは、ちがう意見の人の理由もよく聞きたい。	・振り返りは、役割カードの裏の「できたこと」「これから気を付けたいこと」に書かせる。 ・黒板の記録を写真に残し、次時の振り返りで使う。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

一番上に横に長く議題と目的。その下の左に日付とめあて。左端に話し合いの進め方（議題と目的の確認→提案→質問→意見を出し合う→比べてまとめる→決まったことの確認）を縦に並べ、今どこを話しているかを磁石で示す。中央の広い所を記録係が使い、出た意見を短い言葉で書き、似た意見を線で囲んで見出しを付ける。共通点は同じ色、相違点は別の色の線で示す。右に決まったことと、その理由。右下にまとめと振り返りの観点。

つまづきやすい所と手当て

つまづきやすい所は五つ。一つ目、自分の役割で何を言えばよいか見当がつかない。手当ては、第2時に役割カード（言うこと・すること）を作り、本時まで手元に置かせること（A(1)オの「司会などの役割」）。二つ目、記録係が発言を全部書こうとして追い付かない。手当ては、第4時に短い言葉で書き留める練習をし、似た意見は線で囲んで見出しを付けること（(2)イの「必要な語句などの書き留め方」と「比較や分類の仕方」）。三つ目、意見が多く出て、比べないまま多数決になる。手当ては、記録で分類してから、共通点と相違点を言う順を進め方に入れること（A(1)オの「共通点や相違点に着目して」）。四つ目、発言する子が偏り、黙っている子が多い。手当ては、話し合いメモに書いてから発言させ、隣の子と話してから全体で話す時間を取る。第5時のグループ練習で、全員が一度はどの役割も経験しておく。五つ目、司会が先生に頼り、先生が話し合いを進めてしまう。手当ては、先生の役目を役割カードの次の言葉を指さすことに決めておくこと。

プリントの案

役割カード（司会・記録・提案する人・参加する人）

役割ごとに一枚。表に「言うこと」（司会なら議題と目的の確認、順の指名、まとめの言葉）と「すること」（記録なら短い言葉で書く、似た意見を線で囲む）を書く。裏に振り返りの欄「できたこと」「これから気を付けたいこと」。A(1)オの「司会などの役割」に合わせた。

話し合いメモ（参加する人用）

上に議題と目的を書く欄。中ほどに「自分の考え」「理由」の枠。下に「同じところ」「ちがうところ」「目的に合うのはどれか」の三つの枠。発言の前に書き込んで使う。(2)イとA(1)オに合わせた。

記録の練習シート

先生が読み上げる短い話し合いを聞いて、出た意見を短い言葉で書く欄と、似た意見を線で囲んで見出しを付ける欄。書き留める言葉の長さの手本を一つ示す。(2)イの「必要な語句などの書き留め方」に合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（第4学年）。单元名・教材名・時期（10月）・配当時数（話すこと・聞くこと8時間）・指導目標の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）第4学年 单元一覧。「クラスで話し合って決めよう」（9月・6時間・A(1)オ）の出典（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

